十一日刊
磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十番
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人　福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（毎朝、祭日）休刊

選手の大半歸省し 寂しかつた体育大會

けふ小名濱町に於て 水陸兩樣の競技會

去る一日から小名濱小學校に於て開催中であつた縣教育會主催の夏期大學は十日盛會裡に終りを告げ十一日午前八時から水陸兩樣の体育大會を開催した、陸上は午前八時から正午まで小名濱小學校グランドに於て、水上は正午から小名濱海岸に於て開催したが當日朝來の降雨のため選手百三十余名中約半數位棄權して參加せず觀衆も漸く三百名内外に過ぎず豫想外の寂しさであつた、當日大會には縣教育會副會長田倉孝雄、小野縣議、菅野、風巻、圓谷、室井等各縣視學、磐中、福中兩校長等臨席した、大會の優勝者左の如し。

▲千五百米　1坂本保吉　2折笠博茂　3横田瀧造
▲砲丸投　1十二米佐藤隆丸　2橋本喜一郎　3松倉久四郎
▲二百米　1小林正毅　2七海宏　3横田參
▲四百米　1横田參　2櫻井榮治　3齊藤安之丞
▲走幅飛　1佐藤兼助　2鈴木源六　3遠藤勝治
▲百米　1鈴木源六　2七海宏　3木田谷平
▲ホースジャンプ　1佐藤兼助　2橋本喜一郎　3小林正毅

（以下次號—正午小名濱電話）

相場が安いので 木炭の生産減る

濱三郡木炭同業組合に於ける本年一月から七月末日までの木炭檢査俵數は十一萬五千三十一俵で昨年同期に於ける十二萬四千五百俵に對比すると九千百六十九俵の激減を來してゐる、而して相場は平均檜一圓十五錢、雜木一圓五錢で昨年度に比し十錢内外の安値であるため生産家はその製産を手控へたゝめ前記の如き生産減を來したものである本年と昨年の七月末日までの檢査俵數を示せば左の如し。

	本年	昨年
石城	四八九四俵	四八〇八俵
双葉	五五三一	五三七四七
相馬	一〇九〇六	一〇三五七
大俵	—	三二二四
計	二五〇三一	二四五〇〇

▲石城稻作增收　石城郡地方の稻作は一般に良好で一割の增收を豫想されてゐたがその後稻熱病や害虫の發生のため被害少からず三分を減じ約七分の增收と見られてゐる。

磐城高女校長 縣内から拔擢か

磐城高等女學長櫻井賢文氏死去につき縣當局ではその後任物色中であるが、方針として縣内から新進氣鋭の士を拔擢する筈で任命は八月下旬頃であらうと。

▲農事講習會　大浦村農會主催紫雲英栽培講習會は十一日午前十時から同村小學校に開き縣農事試驗場から高崎技師出張講演を行つた。

▲平町にチブス　平町舊城跡鐵道員合宿所賄曳地敏長男幸一（六ッ）は去月廿八日頃から發病醫師の手當を受けてゐたが九日腸チブスと決定したので直に隔離舍へ收容したが多數の者に賄をなしつゝある同所の事とて後事を怖れ嚴重なる大消毒を行つた。

平・磯の鰹船が 豐間濱で坐礁

救助作業不可能なので 茨城縣に應援を求む

茨城縣那珂郡平磯町字清水町根本造酒之助所有鰹船清水丸（五十三馬力）は金華山沖から平磯に向つて航行中十一日午前三時頃豐間海岸暗礁に乘りあげ船底を少破し進退谷まつてゐるのを豐間漁民が發見し附近消防組員等出動救助につゞめたが救助不能なので平署から茨城縣松原署に通牒し救助船を派遣するやう依頼した、尙ほ人畜には死傷がなかつたと。

第一校臨海校終了

第一小學校臨海學校は去る一日以來小名濱海岸で開催中であつたが八日最終日に水上及び陸上の競技會を催ほし同日午後を以て閉校した。

組合幹部の骨折りで 氷の値上げ見合はせ

氷水商組員喜ぶ

平製氷株式會社では例年夏時氷の需要期に於て製造能力の關係から二三回に亘つて多少の値上げをなし來り本年も過般氷水營業關係者の會合の際舊盆前後に値上げを行ふ可く平製氷加納專務から言明してあつたが、其後氷水商組合の幹部高木、菅本兩氏は近時財界不況の影響を受ける營業者も相當苦しい立場にあるから今年の値上げは今後行はぬやうに取計らつて欲しいと平製氷販賣主任加藤氏まで申し出でたので、加藤氏は加納專務に相談の結果兩幹部の申し出でを諒とし値上げを行はぬ事に決し從前通り一貫匁三十錢で小賣販賣をなす事になつたので、氷水商組合員は高木、菅本兩幹部の奔走に感謝してゐる。

▲平の流燈會　平町青年團鎌田分團並に各寺院主催の鐵道殉難者及無緣佛供養の流燈會は二十日午後八時同町鎌田橋畔で擧行する。

宿屋で六百圓盜まる

川前村川前驛前坂本屋旅館に九日夜宿泊した東京府下隅田川材木商大津金一郎が所持してゐた現金六百三十余圓入手提鞄が同夜何者かに窃取されたのを十日朝になつて發見届出でにより平警察署から刑事數名急行し小野新町署と協力犯人嚴探中である

▲白銀妙見神社祭　平町白銀町妙見神社祭は來る廿二十一日執行の筈で當日は縣賞附きで假裝行列を催ほす計劃であるから賑はひを見るであらう。

鮫電對灌漑民の 提携問題成行（二）

これがため灌漑民は當時プレミアム付二十圓臺が現在では一株僅かに五十錢否三十錢でも買手のない始末、にほどほど業をにやしてゐる、加えて之等灌漑民はかれこれ前後を通じて絞り取られた金は驚く勿れ百二三十萬圓の巨額に達し剰え旱天の場合には灌漑水路に添ふた七百町歩、中四五十町歩は毎年値付け不能に陷つてゐる、これが爲め灌漑民は異口同音に「會社は我々灌漑民を欺罔した」と憤慨してゐる、茲に組合員は初めて愚蒙の夢醒め、我が國農村の疲弊が國家興亡の一基源をなすものとして今や國家的に憂慮されてゐる今日殊にこのまゝ放任し等閑に附する場合は二町四箇村の廢滅に歸するものであると種々善後策に議をねつた結果本年五月農林省川原技師の出張を仰ぎ情を訴へ特別の調査を願つた處、當局に於ても該水路は農林省の「用廢水幹線補助規定」に該當するものと認め即ち總工費の二分の一支出を認められた、然るに該工事の豫算は總額三十二萬圓で半額十六萬圓を縣負擔であるが縣經濟が許さぬので縣は鮫川水系にたいして得た水利權者から殘額支出を要求してゐる矢先鮫川水系に對し出願中の或る事業會社が疏水復活のためなら十六萬圓は惜くないと申込んで來たので組合ではこの際鮫電との舊關係を絶ち、直ちに右會社と相提携し、完全な灌漑疏水の完成を計りたいと本年六月古川縣議を筆頭に本郡選出二三縣議が出福伊東知事に面會の上疏水は本來の目的たる水利權を維持する爲め會社との從來の惡困縁を斷絶し、完全に自已の掌中に收める事が疏水完成のため唯一の方法である旨屢陳情に及んだので知事も情狀大に掬す處あり昭和三年に於て二町四ケ村の復活を計るべき承認を與へて呉れたと云ふから、實現は近き將來にあるべく灌漑民は何れも復活の一日も早からん事を衷心から期待してゐる。

猪狩署長を迎ふ

中村警察署長から平町に榮轉された署長猪狩清氏の人格風貌から手腕力量につき記者の知れる範圍でアッサリ書きなぐつて見やうと思ふ、記者が猪狩新署長を知つたのは、氏は平署にあり警部補として中堅の椅子を握り、そろ〳〵個性を發揮しやうとして彼の巨大な体軀に大きな希望と抱負とを存分波打たせてゐた時代であつた、これから記者生活に臨まうとした自分には夫れ等の凡てから享けた第一印象は痛快味の横溢した男で一杯であつた、此の風貌からしてあの六尺の大兵、隆々たる骨格ポッタリと一とはげなぐり付けた肉太の眉毛、精悍其ものゝ眼光、ガックリと突擊を想はせる下顎骨、どつから見たつて「ヤー猪狩君ッ」と双手を擧げて思はず快叫したくなる風格の持主である、誰からの眼にも、この風格にして將來何事かなすあらんことを期待しないものはなかつたであらう、事實氏は大正九年警部として次席に昇進し大正十年三月保安課に榮轉其後川俣、石川、高田及び中村等いづれも署長として縱横の才腕を揮つた、若いに似合はず切れ味は慥によかつたさうである。斯うした快刀を抱く氏の胸奥にも、かの風格を裏切るやうな純情さが全身に氾濫してゐる、鐵の眼光には童顏が刻まれ、岸石の顎骨からは一本調子な人間味が柔かくほど走つてゐる、そしてつき合へば合ふほど離れ難い幽潤な執着性が毛虫の如き眉毛のあたりをはつてゐる、事故頻發の縣下を誇る平署に氏の如き至純な强骨の漢士を迎えたことは本郡は勿論、事件の多い平町にとつて無上の滿足とする處であらう、吾人は新署長に依つて大なる期待を望むの恐をさけ唯凡てに對し氏に信頼するの賢を持つことが先決である

東京株式清算取引高低表

（東株ハ　當中先限　他株ハ　先限ノミ）

◎第一部　寄付止

東株（當）			
（中）			
（先）			
同新（當）			
（中）			
（先）			
郵船	六八七	同新	二
同新	四二三	塩糖	二
富紡	二〇九	同新	
同新	二三八	新高	
鐘紡	一二四	同新	
同新	二	濱取	
日糖			

◎第二部

麥酒	二〇八九	麥鑛	五五六
同新	一三六九	熱帶	三三二

白煉		磐セ	五〇〇
日セ		久原	四七九
淺野	六八九	同新	
同新	三一五	日石	四七二

◎第三部

自動	三四六	樺太	五二一
同新		日魯	一七七
富紙	七〇四	同新	一〇三五
同新	三五一	日粉	九二〇

短期前場

	寄付	高値	安値	引値
塩水	五二	五二	五〇六	五〇六
久原	四八一	四八一	四七〇	四七五
新淺	三五	三五	三一〇	三一
日石	四九一	四九七	四八八	四九七
新鐘	一三三〇	一三三〇	一三三三	一三三四
東	一三七五	一三七五	一三五二	一三五二

◎良品廉賣に勝る商略なし!!!
磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵金物問屋　◎釜屋商店
磐城平　電話一九三九番

◎確實敏捷は◎の生命なり!!!

直　磐城セメント
金牌受領
印半天專門
優秀品の証明
草野染工場
磐城平町
電話三四八番

◎徒弟入用（徒弟契約に付ては年明きに際し有利に御相談申上候）

滋養、强壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒「粟守酒」
朝の一盃は精力の根原、晩の一盃は休眠の助力
粟守酒特約店　大平屋藥店
代價八日分壹圓九十錢　平町一丁目【電六二四】

東京商品取引

（八月十一日前場）

◎期米

六限	七限	八限	
一節	三四九一	三四八五	三三八九
二節	三四九〇	三四七一	三三七二
三節	三四九〇	三四七〇	三三七九
四節	—	三四六八	三三八一
五節	三四七八	三四六八	三三七九
六節	三四七八	三四五五	三三六〇
七節	三四七八	三四五一	三三六〇
八節	三四七九	三四四六	三三六六

◎綿糸

一節	二節	三節	四節
八限	三三九〇	—	—	三三九六
九限	三三〇八	—	—	三三一五
十限	三三四二	—	三三五一	三三五六
十一限	三三八〇	三三七七	三三八〇	三三八三
十二限	三三八四	三三八七	三三九〇	三三九一
一限	三四〇五	三四〇五	三四〇六	三四一〇
二限	三四二四	三四〇七	三四一〇	三四一四

◎生糸

一節	二節		
八限	三三〇九	三三〇九	三三〇九	三三〇九
九限	三三一七	三三一五	三三一六	三三一五
十限	三三一七	三三一六	三三一六	三三一六
十一限	三三一一	三三一〇	三三一七	三三一六
十二限	三三一〇	三三一八	三三一九	三三一六

原齒科醫院
平町土橋通り　電話三一番

驚いた!!!
こうまで安いことは
—加納活版所の印刷物!!

脳と生殖器（世界的發見○—睪丸エキス）
エキスポン
一手販賣元　平町田町【電話五五一番】宇佐美藥局

古來よりの靈藥　支那六神丸　定價一圓・二圓・五圓
眞正の六神丸として好評偉大
復方チアスターゼ錠
あらゆる胃散にて癒ざる人々に直ちに服用を勸む
大販賣店　山野邊藥局　平町五丁目角

◎親切第一
電氣機械器具
電線類絶縁料
通信機械器具
其他器具修繕
◎確實敏捷
營業目科
モートランス（日立芝浦製）
平町南町磐越銀行向ひ
三瓶電機商店
電話呼七三八番

◎夏の御家庭になくてはならぬ
專賣特許衛生試驗所證明
飲食品防腐器
御飯はスエヌ、醤油はカビヌ、酒はクサラヌ。
飲食物一切のクサリとカビ止器（一個三十錢）
平町四丁目　電話一四四　小野屋藥舗

◎家庭になくてならぬもの
寒暖計體温計各種
イマヅ蠅取粉　小・三〇　半ポンド一・二〇　一ポンド二・〇〇
度量衡計量器指定販賣人　平二村屋藥局　電三番

健腦、强精、美血　新藥「神活」
進んで頭腦明晰、元氣旺盛、精力絶倫を望む人は「神活」に依つて滿足せらるべし
本舗　株式會社松田博愛堂
代理店　平町一丁目　大平屋藥店
藥價壹圓、弐圓、參圓、五圓　電話六四二番

惡性ノ皮膚病ト花柳病ノ豫防ニハ
もぐ
特約店　磐城平町　開内藥局　電四〇番
一個　五十錢　三十錢

病院組織
◎内科、小兒科　院長醫學博士　新井寛治　内科部長　渡部桂太郎
◎外科、皮膚泌尿科　外科部長　木村淳
◎産婦人科　産婦人科部長　野秋善直
◎衛生試驗部（理化學的檢査）　主任醫學博士　新井寛治　技師　渡部桂太郎
◎藥局　藥劑師　吉本孝平　病院主事　賀澤忠治
◎共濟會員　診察無料
磐城共濟病院　平町【電話六四一番】
◎往診は何時にても致します
◎入院料　共濟會員一日　金弐圓參拾錢也　賄付　一般患者一日　金弐圓八拾錢也　賄付
◎看護婦募集す